

著  
古  
堂  
雜  
記  
抄  
錄

15  
1452

1425  
卷

瀛海馬琴筆記

著者  
堂  
集  
記  
摘  
錄



自怡齋藏



門 45  
號 1452  
卷

新刊 日本書目録



美作

早稲田大學圖書館  
昭和31.4.11  
藏書

種

日本書目録



著作堂雜記稿録

日本見在書目録

著作堂雜記稿録

河海抄ニ日本見在書目録藤原佐世撰トアリ書目ハ世ニ全篇ナカ

リシモノト思ヒシニ大和寶生寺ノ印アル古本粘葉一冊書肆カ買得

シテ見ル五六百年前ノ古本

日本國見在書目録

正五位下行陸奥守兼上野權佐藤原佐世奉勅撰

トアリテ部門ヲ立テ書目アリ佐世ハ藤氏ノ儒者ニテ字多醍醐ノ朝ノ人

ナリ希代ノ書ナリ得テミルヘシ予寫シオカサリシヲ遺恨トス下巻解云コノ

佐世朝臣ハ將門ハ水カミヨリソ云モノ歟ヲヨミレ藤六ノコトナリ

開帳

著作堂雜記十一

開帳ノ名目ミフルク聞ヘクリニ水記永正十八年八月早旦詣水屋藥  
師堂鳥從去月開帳也聖德太子御作云々古物御面貌不悞八百  
年許無開帳云々トアリ下卷 十三五

繪馬

繪馬ト云事朝野群載卷ニ云々寛弘九年六月廿五日トアリ又宣胤卿  
記永正十七年十一月九日多武峯遷宮云々繪馬ニ枚進云々下卷 十九

吸物

吸物ト云事吉田社家鈴鹿家記應永六年六月十六日嘉定畧中吸物  
ウツラ柚ヤ又中山親綱卿記文祿四年極月三日丑晴早天醍醐今  
登山畧中其後理僧云一行向了從三門至二献有之其後飯被出於

理スイ物同一献其後飯有之其後水承一行着了門至理第子来  
儀スイ物有之飯相律トアリ下卷 廿五

餅白米

餅白米五斗中合 五斗代金三歩但六斗中合之  
云々但三斗中合有而文云々

内

六斗中合

三斗

五斗中合

三斗

六斗中合

三斗

五斗中合

三斗

六斗中合

三斗

五斗中合

三斗

水

六斗中合

六斗中合

六斗中合

大陽後主而六移文 合ニシテ五ノ五ニ移文

百五十三日廿五

又

著作堂新記二十七

曹西經多門上糯米三斗

此代金

五斗

飯田所

三河屋幸介

四

一五斗五合大鏡

三鏡

一回六寸

三鏡

一回五寸

三鏡

一回四寸五分

三鏡

一水餅

三枚

一水餅

一小餅

三枚

四五斗鏡之膳

四斗五鏡 源光寺

大餅 陽後主而七拾文

御所

甲申三月廿四朝四時前揚了自益屋移來

但合茲主明神下字分也飯田所室に聖馬別と揚了

中郎佛卷

著作堂新記三十四

中郎佛卷景蓮天保五年正月七日龜戸所別時に没す

八十二歳に但此奉傳聞より傳へる事詳 國志花方より傳へる事

七月朔日實忠花見傳へる事同  
三月廿五日金利の事別より傳へる事

居士

禪宗某より傳へる事大なり官家法法寺に居士稱す書き法

宗号より傳へる居士の稱す事常より傳へる事 中阿含經に利梨菴

師法より傳へる居士の稱す事 長阿含經に利梨菴居士首陀

居士の稱す事居士の聲より傳へる事 所謂居士とは高僧市人の稱

假大  
後漢  
魏  
桓  
帝

著述  
卷之十四

假七  
實費之

合

るひ

假  
七

全

甲午正月廿二日

金剛心經  
此多きハ

金

又東涉滌波東都之今之秦皇營事子凡時尚  
 之堦路了自注近世大板之西指之云一排坊戲

以上

著作堂雜誌

塵外樓

全

六樹園餘集

石川五郎

男  
墮  
外  
樓

清江

中村  
清之

去甲午夏

月日  
不詳  
改  
時

乙未二月廿六日  
河内方若岳也

(天保六)

近松門左衛門答具角書

全

綫中徑五寸五分板厚六分  
正始相生於人所藏

五

此紙之一件、二月間、后付り、交  
當地より、寄る、とて、忠臣の  
評判、より、事、計、御城、に  
只、堺、所、勘、定、の、旨、を、御、付、り、

但十郎少将五郎、傳言の事

當時、戦遠、色々、有る、事

、此、事、を、此、方、に、有、る、事、に、

、事、を、有、る、事、に、有、る、事、に、

、事、を、有、る、事、に、

、事、を、有、る、事、に、

近江の事

京都

其角板

右大膳、後、人、追、記

近江先生、七、十、里、迄、と、有、る、事

、事、を、有、る、事、に、有、る、事、に、

押、手、後、有、る、事、に、

根、恩、の、事、に、有、る、事、に、

右、事、を、有、る、事、に、有、る、事、に、有、る、事、に、

目、次、の、事、に、有、る、事、に、

遊、子、放、言、の、作、者

著作堂雜記三十四

天明中、松、林、河、守、の、事、に、有、る、事、に、

、事、を、有、る、事、に、有、る、事、に、有、る、事、に、

、事、を、有、る、事、に、有、る、事、に、有、る、事、に、

、事、を、有、る、事、に、有、る、事、に、有、る、事、に、

鼻、子、の、物、語、作、者

鼻、子、の、事、に、有、る、事、に、有、る、事、に、有、る、事、に、

其國人を授けし書は其の著者の目録に在りしものなり  
其書先其の著者の先づ國學者は其の著者一派流りの言を家  
に於てあり又其の著者田舎に於て吸ひ中より其の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者

南畝隨筆玉川砂利 著作堂雜記三十四

此の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者  
其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者其の著者の著者

其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全

其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全  
其蠅蒼翁草寫本貳百卷 全

機嫌 全

長門中物語又後然州廿四段より  
後漢書馬嚴傳識壇  
二字の云此録抄あり

著作堂雜記 三十三

馬

十輟  
八耕  
丁錄  
卷二

吾原意注通到一冊  
入編  
延寶六年清明  
通油山寺同屋開版

秋葵實石槌石解石接石不離石妙石石手

荷之

ア  
ヤ  
メ

著作堂雜記 二十七  
後ニアルモノ 卷看スヘシ

沙石集卷五之盛有歌第一條故鎌倉ノ右大将家京ヨリアヤメト云  
ハシタモノ、美人ナリケルヲメシ下レラカクレオカレケルヲ梶原ノ三郎兵衛  
尉所望シテミタリケレバ同シ齡ノ十七八ハカリナル女房美女ノミモシテ又ヲ





著作叢記二十七

著作堂雜記

家佛學ヲ重シシ佛書ヲ究ム因テ釋門ニ用ル言ヲ多ク用エ佛經ハ六朝ノ  
人ノ筆受多ケレハ當時ノ文章ニテ譯潤ヲ為ス故ニ其言語經論ヨリ出テ僧  
家ノ常言トナリ僧家ヨリ轉レテ俗間ノ用トナレルナリ六朝ノ史傳ニ據用スル  
ニアラ子トモ其時代ノ文章同レ事ナル故ニ今齊書梁書南北史等ニ每々  
多クアルナリ涉獵ノ次ニ二三ヲ出ス

了  
○  
時服  
儒林傳  
同上

○信向北齊書 ○吏度後周書王悅傳 ○故實同上高祖紀云 ○仰言上  
後周書高祖紀云詔一志一行可稱揚者仰承部官司隨事言上齊書孝昭紀云  
詔外州大夢仰與司勒加督課同後主紀云宮人官仰所司簡放  
後周書高祖紀云  
衆軍進發 ○音樂同上 ○清身後周書宣帝紀云令群臣朝臺者 ○停止  
武帝紀 ○生類同上 ○修復後主紀 ○格外同上 ○流布南史 ○褒美  
楊公則傳 ○器量同上 ○議定徐勉傳 ○文句同上 ○息同上 ○差別  
劉師知傳 ○木食同上 ○博學同上 ○蜂起同上  
劉師知傳 ○師匠北魏書 ○自餘同上 ○方便同上 ○催促同上  
軍將起 ○容舍北齊書 ○口舌同上 ○上手北史楊素傳上賜王公以下 ○流浪同上  
綸言同上 ○一人當千同上 ○堪能宋書明帝紀云  
口傳同上 ○異口同音同上 ○橫死同上 ○家內  
同上殷琰傳云  
家內傳壽陽

此類甚多此中史漢以來舊語多有之然世之言習之者  
粗記之又當國當地類今史文之本國本地云云當云此方云  
不當云字云專云用云北齊書斛律金傳云大昌初以金為汾州刺史  
當州大都督云云今云當國云云意ナリ北史房豹傳長子彥最知  
名病卒豹悲痛レテ以為喪當家之寶是之同レ義ナリ 靜齋隨筆  
反古紙ノ事 著作堂雜記一

字紙ヲ反古ト云事南齊書沈麟士傳云字以及古抄寫云麟士力  
學ヲ嗜ラ反古ノ裏ニ書ヲ寫シレタ云ナリ反古ノ字紙タル事明ナリ  
伊藤氏ノ六帖ニ出セル披反古紙ノ語ニヨツテ此方ニテ反古トイヘト云是  
ハ古紙ヲ披反スル下ニ云意ニテ披反ハ披閱ナト云ニ同レ昔ヨリ誤テ反  
古紙ヲ披クト讀テソレヨリ反古ト云ハ點ノ誤ヨリ出タト云説ニ推量ノ誤

ナリ字紙ヲ改紙ト云ヘケレ氏及古ト云事ニ出要アルナリ 静齋隨筆

### 山人ノ事

著作堂雜記一

山人ハ山居ノ人ヲ云ハ勿論ナリ唐ノ肅宗ノ季泌ト同行シ五フテ諸軍ノ士指シテ黄衣者聖人白衣者山人ト云レハ山居ノ人ニテ隱者ノ事ナリ聖人トハ天子ノ事也明朝ノ比ニ山人ト云ハ山居ノ義ニ拘ラス處士ト云ト同前ニ見ユ明末ニ沈一貫ト云人内閣學士ニテ政ヲ執リ權勢頗盛ナリレトキ而官其家ニ伺候シテ賓客門ニ滿タリシニ一人給事中ノ官ナルモノ一貫カ坐止ニ一白衣ノ遊士居合タリシヲ見テ昔之山人山中之人今之山人山外之人ト戲レケレ其人即時ニ答テ云昔之給事給事黃門今之給事給事相門ト云ケレハ給事中ナル人輒テ退レト明史紀事本末ニアリ當時ノ山人ハ高尚ノ徒ニアラサルヲ見ヘシ給事ハ省中ノ事ヲ

司ル官ナリ黃門トハ省中ナリ相門トハ宰相ノ門ナリ彼給事カ禁省ノ公務ヲ差置テ沈一貫カ家ニ出入スルヲ譏テ斯ク云フ也 静齋隨筆

### 詩會作法ノ事

全

詩會ニ作法アルヲ聞ス今ノ世式ハ其式ヲ説ク者只和歌ノ會式ニ模スルノミ先人雜話ノ第一條ニ五山ノ大詩會ヲ短冊切ト云由ヲ載セ粗其法ヲ記セリ廣澤先生嘗誤テ云ラク先年玉桂椿ト云フ小説一帙ヲ覽過ス雜劇院本ノ類ニテ寓言ナリ其中ニ唐朝ノ靈杞等八人會シテ詩ヲ賦セシメテ書ス聊其式法ヲ具フ年久シクシテ委シキヲハ忘レタト語テレシ其後モコノ書ヲ見及ヌ又或人ノ云レハ漁鼓簡板トテ唐人ノ詩ヲ吟スル片是ヲ擊テ節ヲナス漁鼓ハ小サキ鼓ナリ其形竹筒ノ如シ簡板ハ是ヲ打スルモノナリ其形シ如此ト云ヘリ何レモ説話ノミ所見ナケレ

旦、字、事

著作堂雜記

下異  
ナリ  
靜  
帝  
隨  
筆

解云大平記ニ且、字ヲシハラクト讀リテノ類ナリ

靜齋先生名光遠字子深靜齋具弭嘗受業於鳩巢先生

雨遂往大和寺松平氏

落語會禁制

著作堂雜記十

茲接會以事寬政九日申中和西事馬馬料理茶屋并去方信受  
 新作茶屋店催新自北山奉り少沙法乃之向後方極之事以寸  
 間分料理茶屋店廣中事為言以交遊文章之為近來新記之說  
 此後或為多々事必心得通之其後乃之各以才又治世會不後極神  
 田遊酒方門庭各之一被中合也一始書付披閱為心得以實之

驚五德

著作堂雜記十二

丁丑五月八日爲築川先君作春鳥漫錄一卷。翌日稿成。同十日使宗伯進諸先君。編中稱鶯有五德云。世人只知鷄有五德。而不知鶯亦有五德也。舊巢以伏杜鵑者仁也。不群居枝頭與女鳴者義也。宿梅以荅詔者禮也。鳥而能詠歌者智也。使山人知春者信也。此鳥也。有此五德。且生於竹葉而遷

著作堂雜記十二

所集又春興

鐘倉中務卿親王

[illegible]

前志を以てしやむるを

六三、去鳥邊、鍾中、載、カ、ク、ケ、コ、カ、

再致此頌。只曉覺之。少頃。在的。日。并。只。出。日。月。

風聞

寒山拾得

著作堂雜記十七

傳燈錄卷十五 京兆觀子和尚

十六丁ノ左  
十七丁ノ右

同卷二十七  
天台寒山子

天台拾得

明州布袋和尚

十  
九  
丁  
左  
テ

時歸長汀子布袞師嘗雪中臥雪不沾身人以此奇之

丁十七  
或就

人乞其貨則售示人書山必忘無哉十八丁

天台拾得者不言名氏因豐干禪師山中經行至赤城側聞兒啼聲遂尋之見一子可數歲初謂牧羊子及問之孤棄于此豐干乃名為拾得攜至國清寺付典座僧曰十六丁左

天台寒山子者與氏族始豐縣西七十里有寒明二巖以其於寒巖中居止得名也容貌枯槁布襦零落以樺皮為冠或大木履時來國清寺就拾得取眾僧殘食菜滓食之十三丁左

アヤノ 著作堂雜記二十  
前ニアルモノ卷看スヘシ

辛巳二月十二日龜田鵬齋其門人寺本久右衛門ト云モノヲ使トシテ余ニイヘリケル伊豆國ノコトヲ書キ侍ルカ愛玉ノアヤノノ前ノ事考モアラハ聞マホシトテ彼蒜山ノ儒生秋山氏カアヤノノ前ノ碑文ヲ寫

セシヲヨセテ問レシカハ余即平家物語源平盛衰記十訓抄下學集並ニ玄翁和尚傳ヲ引テ賴政卿アヤノノ前ヲ賜ルトアルハ當時ノ説ナルヘシ其故ハ砂石集ニ云ヒトアリイツレアヤメト引ソワツラウト云歌ハ梶原ナリ秋山ハ土俗ノイヘルマニウケテ此碑文ヲハ作りシナラム越後ニミアヤメノ前ノ墓トイフモノ越後名寄ニ見エタリイツレモ信用シ難シ伊豆ハ賴政ノ長男仲綱ノ受領ノ地ナレハ其妻子ノ墓ナシトハイモカタケレトモソレヲアヤメノ前ノ墓トイヒ傳ヘシハ土俗ノ附會ナルヘシト答テ其使ニアハサリシナリ

南畝 著作堂雜記二十六

吾田王左衛門初名直以郎 稱南畝 癸未四月廿六日物故年七十五才不才者去年夏に轉任より出り不自由なり今夏四月廿六日卒中風より云々

子息父より言ふ事勸定其留少しと云ふ事一婦縁承祖付氏  
嫡流の勸定を留中より言ふ事一婦縁承祖付氏  
顔より言事より言ふ事一蘭 其言 臨平治 下 廿五

愚癡拾遺物語 著信堂雜記二十六

寓中一書作者は姓名を不著し何人の著述なり事と云ふ  
竊に昔の年作者の自序あり其書は法一と云ふ事一蘭 其言 臨平治 下 廿五  
氏 觀寫より言ふ事一何人なりと云ふ事一蘭 其言 臨平治 下 廿五  
此書當時何人の御事と云ふ事一蘭 其言 臨平治 下 廿五  
書を所載より 淨土名の事と云ふ事一蘭 其言 臨平治 下 廿五  
此書は法一と云ふ事一蘭 其言 臨平治 下 廿五

念佛無間法語事

或人云日蓮上人の語トテ念佛無間ト云ヘルハ念佛申スレハ無間地  
獄ハ墮スルト云フニヤ

僧正答云日蓮上人ハ却テ念佛ヲ勸メ玉フアリ十章抄ニ真砂  
觀海稱圓行ナリ況ヤ唱彌陀等名トヘリ又題目抄ニ南無妙法蓮  
華經ト一日ニ六万十萬等モ唱ヘテ隙アラハ彌陀等ノ名ヲ時ニ口ニ  
ミノ様ニ申スコソ信法華廿八ノレ云ヘリ 行願僧正隨筆 万葉草

水ニ皮あり事

或時小児トモニ教ラルハ菓ニ限ラス萬物ニ皮アリ其皮ハ必取り去リ  
テ食スヘシ毒氣ナリ水ニモ皮アリ井ノ水川ノ水ニテモ上ノ皮ヲ去ラ  
ムヘシ水ノ皮トハ波ナリ文字モ水ニ皮ヲ會意シタリ 行願僧正隨筆 万葉草

芷蘭文字之事

著作堂雜記二十六

或時物語ニ唐土ヨリ文書ヲ書達て来ルコト多シ

孔子家語並ニ顏氏家訓ニ芷蘭之室ト云文字アリ皆芷ノ字ニ作ル案スルニ芷ハ香草ニアラス元ト芷ノ字ナリ禮記内則ニ蒞蘭トアリ漢書ノ注ニ芷又作蒞字異ニシテ義同シトアリ芷ハ香艸ナリ世ニ誤ルコト久シ芷ト蒞ト書達ヘタリ 行願僧正隨筆 万年草

大黒天ノ事 全

或人大黒天ノ奥儀ヲ尋玉フ

僧正答云大黒天ノ説大佛頂陀羅尼大日經理趣釋經仁王護國經末ニ見ヘタリ吃枳尼ヲ伏レ疫神ヲ逐ヒ實ニ三世無障礙ト守護シ玉フ直ニ大日如来ナリト金剛薩埵ハ演玉ヘリ能延六

月ノ法トテ必死ノモノヲ六月延ルモ此尊ノ法ナリ又軍神ニ祭ルコト仁王經疏ニ見ヘタリ南海寄歸傳ニ天竺ニハ都テ此天ヲ家ノ柱ニ祀ルトアレハ我邦ノ大黒柱ハ此傳法ナリ又食堂ニ祀ルトアリ梵語ニ摩訶大伽羅黒ト云世俗ニ福神ト云ルモ經説ニハ見ヘサレ氏金剛針論ノ中ニ伽羅ヲ福ト翻シタレハ大福トモ云事ナリサテ尊像ニモ異説アリ仁王疏ト胎藏曼荼羅トハ其形相大ニ異ナルナリ世流布ノ像ニ又異アリ弘法大師様ト傳ルハ荷葉ノ座ニ袋ヲ持テ杖ヲ持玉ハス杖ノ印ナリ傳教大師様ト傳ルハ俵ニ坐シ杖ヲ持テ袋ナシ又合体大黒トテ袋モ杖モ具シタルアリ其餘ニ面大黒ハ所ニ傳ヘタリ愚僧ハ十六歳ノ春ヨリ此尊ノ短法ヲ傳ヘテ今日マテ一日モ休セス修行ス尊像モ畫キ覺ヘテ信者ニハ施スコト

多羊ナリ奇時モ覺ヘタルハ横災ヲ除キ疫疾ヲ殺シ官業昇進  
 ヲ祈ルニ速ナリ福ハ不足ハナケレド多財ニハアラス元ヨリ福ヲ為  
 ニハ未タ修セサルナリ外ノ天部ハ願成就ノ後用心セサレハ其代リニ  
 災来ルトアリ涅槃經ニ貧神ハ福神ト連立玉フト説ルカ如シ然ル  
 ニ此尊ハ三世無障礙トアレハ愚僧ハ頼母レク信仰スルナリ神道ニハ  
 三輪明大已貴ト傳ルナリ 行願僧正隨筆 万年草  
 下野安蘇郡赤岩庚中山ノ記 著作堂雜記二十六  
 下野安蘇郡赤岩庚中山記一冊 凡六丁 標紙ナシ 畧之  
 中洲ノ浮畫 著作堂雜記二十八  
 畧す

知行貫高ノ事 全

大分ノ上ニ幾万石土庫ニ身土庫今石炭百石ノ事ハ古傳  
 有ル大形信長唐吉河ノ領地リ書物ニ見ユ何耶  
 河根河部ノ家ハ石炭百石ノ事アリ石官ハ一土官ノ事  
 幾十萬石ノ事アリ當時石炭河部ノ領地アリ一坪ノ苗一  
 坪種ノ事アリ百坪ノ苗百坪種ノ事アリ百坪ノ苗百坪種ノ事  
 種ノ一畧同トシ此種ノ大坪ノ畧同ハ百石百畧同ハ千石ノ畧同  
 上中下河部ノ事一定ナシ 改謄記

[illegible]

手抄本 據云原書馬路約の稿本以文字分明也  
得樓子馬の原稿字之欠之可也

明治三十七年夏六月梅亭前一日

台藏同人 藤隆雄漫識



此稿本之原書馬路約の稿本以文字分明也  
得樓子馬の原稿字之欠之可也  
明治三十七年夏六月梅亭前一日  
台藏同人 藤隆雄漫識

